

やう候觀世大夫には大名のごとく、下繪の紙につまされ候つゝ、み候事、上臈の御使にて候つゝ、み紙のうへを、又杉原ひとかさねにて御包候て御出し候、申つぎとりつぎ候て、かたがたへまいられ候。

〔成氏年中行事十月〕一十月朔日、御祝如例、亥子之御祝三度アル時ハ、三度ナガラ御祝有之、御成切管領ヨリハ、以使可被下由被申上、其使ニ御對面、其以後御使被遣之、管領御成切直ニ請取有頂戴御使ニ一獻、其後被出太刀、歸參シテ、其由ヲ申上、自餘ノ外様ハ、近付方々申出シテ被遣之、奉公中在郷之方々御亥子之御祝ニ、多分參上アル也。

一亥ノ子ノ餅之事、御祝亥ノ時也、白餅、赤豆餅、黒餅、衝重ニ積テ、胡麻ノ粉、小豆ノ粉、栗ノコ、フチダカニ紙ヲシキ、三種ノコヲ、三所ニヲキテ御前ニ置也、松ノ木ニテ、リウゴノセイニウスヲ作リテ、柳ノ木ニテ、キネヲ二本作、強飯ヲウスニ入、三種ノコヲカケテ、キネニヲラシソロヘ、右ノ手ニトリテ、女ハ、イヌチツク、サイフイド、三キネツイテ食ベシ、オトコハ、イノチツクツカサト、三キネツキテ食ベシ、白強飯ヤイル也。

〔享保集成絲綸錄〕寛永二十一年十月八日

一今晚御亥猪ニ衆人登城之刻限之事、御近習之面々未刻より總番衆、未下刻より諸衆申刻より同下刻迄を可限、此外は如例年たるべき之旨被仰出之趣、彌可存其旨之由上意也云々、是例年は申刻以後より酉刻迄之間に、不殘登城付而下乘之橋之邊、僕從一同に群集候而、騷動之故也云々、〔嚴有院様御代覺書〕一十月初之亥日、御亥猪御祝、酉刻御長袴ニ而、御白書院江出御、松平左京大夫松平攝津守、松平出雲守、井伊掃部頭、松平讃岐守、保科肥後守、松平刑部大輔、松平播磨守、藤堂和泉守、松平大和守、松平出羽守、松平下總守、此外酒井雅樂頭、吉良大澤、老中侍從以上之高家衆、四品之御譜代衆、右何も官位之順に壹人充出座、自御手御餅頂戴、右之外御譜代衆、御詰衆、同息、御番頭衆、